

## 選定種の解説

### 爬虫類



## 概要

福岡県産爬虫類の希少種選定には、全種を対象とした県内の分布情報を収集し、記録地点の3次メッシュ（環境庁，1997）に基づいて分布図を作成するという、福岡県RDB2001作成時と同じ手法を用いた。

分布情報は分科会委員と調査協力者による現地情報、関連文献、市町村が作成した自然環境調査報告書、環境影響評価書、国土交通省の河川水辺の国勢調査で得られたデータなどである。これらに、前回の調査で得られたデータを含めて評価した。なお、現地調査は成体・幼体の目撃のほか、ヘビ類では同定が可能な限り脱皮殻も含め、やはり同定可能な路上死体（DOR: Dead on roadの略）も対象として扱った。種の同定には高田・大谷（2011）、内山ほか（2002）、千石（1979）、中村・上野（1963）を用いた。

出現する個体数は年ごとに変動し、観察時の気温にも大きく左右される。また、夜行性の種は昼間の観察ではほとんど記録されることがない。これらのことから個体数の増減に関して詳細を把握するのは極めて困難である。種類ごと、地域ごとの詳細な調査が必要であろう。したがって、今回も前回同様に分科会委員の経験に基づく増減の印象に生息地の環境変化を加味して、増減の程度を判断した。

福岡県に分布する爬虫類は、カメ目5種、有鱗目11種の合計16種である（福岡県爬虫類目録）。日本にはカメ目11種（固有種2、外来種1）、有鱗目76種（固有種41、外来種2、外来亜種1）が分布しており、福岡県には日本産カメ目の45.5%、有鱗目の14.5%が分布していることになる。種の分類と和名については日本爬虫両棲類学会（2013）に従った。なお、福岡県の海岸にはアオウミガメ、ヒメウミガメ、タイマイ、オサガメの漂着記録があり、セグロウミヘビも記録されている（倉本・石井，2003）。しかし、その大部分は死体の漂着で、福岡県の海域が正常な回遊域とは考え難い。したがって、上陸して産卵するアカウミガメのみを県産種としている。

今回希少種として選定した爬虫類は絶滅危惧IB類1種、絶滅危惧II類2種、準絶滅危惧3種、情報不足1種の合計7種で、前回に比べ1種が増加している（新旧対照表）。この数は福岡県産爬虫類の43.7%にあたる。とりわけカメ目、有鱗目のヘビ亜目でハビタットの変化に関連した減少傾向がうかがえる。カテゴリが前回から変更された種のうち、ニホンイシガメは目撃数が少ないことに加え、生息に適した水域や産卵場所となる草地が明らかに減少・悪化の傾向を示すことから、前回の準絶滅危惧を絶滅危惧II類に変更した。ヒバカリは前回の評価ではランク外であったが、生息場所の水辺環境が悪化していることから準絶滅危惧とした。また、ニホンスッポンは前回準絶滅危惧としていたが、養殖と関連して日本在来のものと遺伝的に異なる中国系のものが混在している可能性が高いことから、今後の分析による実態解明を期待して情報不足とした。

## ハビタットとその変化

爬虫類の多くは餌動物と密接に関係のある環境に生息している。例えば、両生類を主食としている種の生息環境は、自ずと両生類の生息環境と重なる。今回希少種に選定したヘビ類では、ヒバカリを除いて主に餌とする動物が決まっている。

### (1) 海岸，海洋

海岸はアカウミガメが産卵に利用する。岡垣町の海岸はアカウミガメの産卵地としては日本海側の北東限にあたる重要な場所である。産卵には奥行きのあるきれいな砂浜が望ましいが、ゴミや車の乗り入れなど、砂浜の保全には今後多くの課題が残されている。砂利採取に伴う砂浜の後退も問題となっている。また、周辺の海洋も重要な生息環境なので、海洋汚染も回遊数減少の要因となる。

### (2) 河川，池沼，水田

いわゆる水辺で、近年もっとも大きく変化した環境である。コンクリートで固められた河岸や水路が増加し、爬虫類の隠れ場所や餌動物が減少して生息に適さなくなった箇所が増えている。また、水量が減ったり一時的に乾燥するなど、不安定になっている箇所もある。

ここには多くのヘビ類が好んで捕食する両生類（主にカエル類）が生息している。普通種であるヤマカガシ、シマヘビ、やや減少しつつあると思えるニホンマムシ、今回の希少種のリストにあがったヒバカリなどが主な生息地としている。とりわけヤマカガシとシマヘビは同じ水田などでよく重複して生息していることが多いが、この場合、食性の多様なシマヘビが主食を両生類からトカゲ類などに変えて適応していることが多いようである。ニホンマムシやヒバカリもカエル類を好んで捕食するが、ニホンマムシは食性が広いので競合に対応でき、ヒバカリはカエルの他にミミズ類をよく捕食しているため、何とか対応できるのであろう。水田域などでカエル類が減少すれば、いずれヤマカガシも希少種になる可能性がある。

カメ類では、冬眠を含む生活そのものが水辺と関わっている。ニホンイシガメは主にきれいな流水、ニホンスッポンは砂泥質の河川や池沼という生息環境の違いがあるが、それらの生息環境の減少や悪化に伴う個体数の減少が憂慮される。現在、普通種扱いのクサガメも環境の変化によっては十分に希少種となり得る。淡水域のカメ類にとって、外来種のミシシippアカミミガメとの競合も衰退の重要な要因と考えられる。

### (3) 山地

ここには日中は隠れ場で過ごし、主に夜間に活動する爬虫類が多い。タカチホヘビは主に山地のガレ場などの石の下で見つかっている。このような場所には餌となるミミズ類が多く生息している。タカチホヘビは特に体鱗が他の福岡県産のヘビ類と異なる敷石状の配列なので、鱗と鱗の間に皮膚が露出しているため乾燥に弱く、日中には石の下に隠れており、主に夜間に活動する。ジムグリの場合、以前は平地の耕作地などでも比較的普通にみられたが、宅地開発や樹木の伐採などの影響で著しく減少し、現在はほとんど山地でしかみられない。しかも、餌としてネズミや食虫類などの小型哺乳類のみを食べる狭食性のヘビであるため、これら餌動物の減少も大きく関わってくる。山地の目立った変化としては伐採や林道建設などがあるが、幸い開発の程度はそれほど大規模ではないので、個体数の急激な変動は少ないと考えられる。

### (4) 人家周辺

トカゲ類（ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ）には目立った増減がみられないため、普通種扱いとした。これらは人家や公園の庭、植え込み、石垣などをうまく利用して生活している。ヘビ類でもアオダイショウには大きな増減がないように思える。人家周辺では準絶滅危惧のシロマダラが見つかることもある（藤田，2011）。シロマダラは夜行性の傾向が強いヘビで、日中は石や倒木、構造物の隙間に潜んで、夜間にトカゲ類や小型のヘビを捕食するために徘徊する。その際、車に轢かれることも多く、シロマダラは路上死体（DOR）としてよく見つかる。シロマダラはタカチホヘビやヒバカリも餌とするから山地でもみられるが、山地での減少はあまり考えられない。本来シロマダラやタカチホヘビは個体数そのものが多くないので、これらの個体数増減を見積もるのは困難である。

## 保全対策

カメ類では河川や池沼の保全、とりわけ河川の保全が重要と思われる。流速が増したり、日光浴のできる場所のない河川には棲みにくい。また、まわりの陸地も産卵などに利用するから、その管理には適切な配慮が必要である。アカウミガメは産卵のため砂浜へ上陸するから砂浜の適切な管理が必要であるが、特に孵化幼体の進路を塞ぐゴミの問題、四輪駆動車の砂浜への乗り入れは重要視されるべきである。

ヘビ類では餌動物の増減に伴う個体数の変動が考えられるので、餌動物の生息地を含めた保全策が必要であろう。森林伐採なども減少の大きな要因になり得る。

県内ではワニガメ、カミツキガメ、ハナガメやシャムワニの捕獲例があり、これらは飼い主が放したり逃げ出したペット動物である。印旛沼にカミツキガメが定着し、その駆除対策が問題になっている。このような事態にならないよう、厳重なペット管理が望まれる。

### 調査協力者名 (50 音順)

赤瀬征雄, 石川英孝, 井上大輔, 岩切 稔, 岩崎朝生, 岩橋 正, 鶴川 亮, 江頭修志, 及川 信, 笠井智之, 勝野史雄, 北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会両生・爬虫類研究部会, ぐりんぐりん古賀「自然環境と保全グループ」, 恋の浦うみがめの会, 神野展光, 鈴木 大, 芹野政勝, 添田征士, 武石全慈, 中島 淳, 西田 伸, 秦 良江, 林 千里, 廣田知良, 藤田明美, 宝理信也, 宮形佳孝, 山根明弘, 渡部 登

### 引用文献

- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 日本の両生爬虫類. 平凡社, 東京.  
 環境庁. 1997. 都道府県別メッシュマップ40福岡県. 環境庁, 東京.  
 倉本 満・石井 忠. 2003. 福岡県のウミガメ一産卵と漂着の記録一. 爬虫両棲類学会報, 2003: 2-7.  
 千石正一 (編). 1979. 原色 両生・爬虫類. 家の光協会, 東京.  
 高田榮一・大谷 勉. 2011. 原色爬虫類・両生類検索図鑑. 北隆館, 東京.  
 中村健児・上野俊一. 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 保育社, 大阪.  
 日本爬虫両棲類学会. 2013. 日本産爬虫両生類標準和名. 日本爬虫両棲類学会, 京都.  
 藤田明美. 2011. 北九州市若松区にてシロマダラを発見. わたしたちの自然史, 116: 17.

### 福岡県爬虫類目録

目名	科名	種名	
カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i> (Temminck and Schlegel, 1835)
		クサガメ	<i>Chinemys reevesii</i> (Gray, 1831)
	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i> (Wied, 1839)
	スッポン科	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i> (Wiegmann, 1835)
	ウミガメ科	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i> (Linnaeus, 1758)
有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i> (Duméril and Bibron, 1836)
	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i> (Schlegel, 1838)
	トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i> (Peters, 1864)
		タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i> Peters, 1869
	ナミヘビ科	アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i> (Boie, 1826)
		シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i> (Boie, 1826)
		ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i> (Boie, 1826)
		シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i> (Hilgendorf, 1880)
		ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i> (Boie, 1826)
		ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus tigrinus</i> (Boie, 1826)
		クサリヘビ科	ニホンマムシ

新旧対照表

		福岡県RDB2001のカテゴリー			再選定 種数※	追加 種数※	掲載 種数※
		絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧			
今 回 の カ テ ゴ リ	絶滅危惧IB類	アカウミガメ			1		1
	絶滅危惧II類		タカチホヘビ	ニホンイシガメ	2		2
	準絶滅危惧			ジムグリ シロマダラ	2	1	3
	情報不足			ニホンスッポン	1		1
	(合計)				6	1	7

	福岡県RDB2001のカテゴリー			合計 種数
	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
今回除外した種※				0

		今回追加した種	
今 回 の カ テ ゴ リ	準絶滅危惧	ヒバカリ	

- ※ 再選定種数 … 福岡県RDB2001の選定種のうち、今回（福岡県RDB2014）でも再び選定した種の数。  
 追加種数 … 福岡県RDB2001の選定種以外で、今回（福岡県RDB2014）において新たに選定した種の数。  
 掲載種数 … 福岡県RDB2014に選定した種の数。（「再選定種数」と「追加種数」の合計）  
 今回除外した種 … 福岡県RDB2001の選定種のうち、再評価の結果、今回（福岡県RDB2014）は選定しなかった種。

<b>カメ目ウミガメ科</b>	<b>アカウミガメ</b>	<b>絶滅危惧 IB 類</b>
-----------------	---------------	------------------

*Caretta caretta* (Linnaeus,1758)

2001：絶滅危惧 IB 類，環境省：絶滅危惧 IB 類

<b>選定理由</b>	数は少ないが、福津市から岡垣町にかけて、ほぼ毎年産卵している。日本海側の産卵地の北限。県内だけの上陸数では、顕著な減少はみられないものの、長期・広域的な調査によると生息数は減少傾向にある。
<b>危機要因</b>	海岸開発，その他(漂着物等)
<b>分布情報</b>	福岡市東区，福津市，宗像市，岡垣町
<b>種の概要</b>	海洋で生活し，産卵のために上陸する。産卵は 6～8 月に行われ，孵化した幼体は海流に乗って北太平洋を大きく回遊し，亜成体の時期に繁殖地周辺に戻ってくる。しかし，生態については不明な部分が多く，日本各地で調査や研究，保護活動が行われている。
<b>特記事項</b>	福津市では「福津市ウミガメ保護条例」を制定し，ウミガメの保護に努めている。

<b>カメ目イシガメ科</b>	<b>ニホンイシガメ</b>	<b>絶滅危惧 II 類</b>
-----------------	----------------	------------------

*Mauremys japonica* (Temminck and Schlegel,1835)

2001：準絶滅危惧，環境省：準絶滅危惧

<b>選定理由</b>	昔は，県内のいたるところに生息していたと思われるが，現在の主な生息環境は，山の裾野等に残された里山である。この里山の消失，あるいは荒廃に伴い個体数が減少している。本種は，小川や田圃・池や湿地を季節ごとに移動し，利用しているが，護岸工事によって移動が妨げられ，河川に閉じ込められている場合もある。
<b>危機要因</b>	森林伐採，河川開発，湿地開発，ため池改修，外来種侵入(ミシシippアカミガメ)，異種交雑(クサガメ)，その他(過剰な草地管理)
<b>分布情報</b>	北九州市，福岡市，久留米市，田川市，宗像市，太宰府市，古賀市，糸島市，那珂川町，苅田町，築上町
<b>種の概要</b>	里山環境が残った地域に生息しているが，地域によって，分布に偏りがみられる。6～7 月，日当たりの良い山道等まで移動して土の中に 6 個前後の卵を産み，穴を埋め戻す。卵は哺乳類などに捕食されることもあるが，通常は 3 ヶ月ほどで孵化する。孵化個体は土中で冬を越し，翌年の春に地上に出てくることがある。日本固有種。

<b>有鱗目ナミヘビ科</b>	<b>タカチホヘビ</b>	<b>絶滅危惧 II 類</b>
-----------------	---------------	------------------

*Achalinus spinalis* Peters,1869

2001：絶滅危惧 II 類，環境省：－

<b>選定理由</b>	夜行性のヘビで，生息環境を選択するのか県内の確認地点もかなり断片的である。他県でも同じことが言え，場所によっては，ほぼ普通のヘビであったり，また，逆にいまだに記録のない県もある。県内では，ほぼ山地森林のガレ場など，石や岩の多いところで見つかっているが，産地が非常に限られている。
<b>危機要因</b>	森林伐採，産地局限
<b>分布情報</b>	北九州市八幡東区，福岡市早良区，八女市，朝倉市，糸島市，那珂川町，苅田町。主に山地森林のガレ場。
<b>種の概要</b>	小型で無害のヘビで，全長が 50 cm もあれば大きな方である。夜行性で，昼間はガレ場などの石などの下に隠れている。鱗と鱗の間に皮膚が露出しているためか，乾燥にも弱いらしいが，時として雨上がりなどの昼間にみられることもある。ミミズを主に食べている。

有鱗目ナミヘビ科	ジムグリ	準絶滅危惧
<i>Euprepiophis conspicillatus</i> (Boie,1826)		2001：準絶滅危惧，環境省：－
選定理由	以前は平地でも割と普通に目撃されていたが、近年では山地森林で見つかることがほとんどである。よく地中に潜る種なので宅地造成などでの環境の変化によって、平地で数が減少したものと考えられる。	
分布情報	北九州市，福岡市，大牟田市，田川市，八女市，筑紫野市，宗像市，古賀市，宮若市，嘉麻市，朝倉市，糸島市，那珂川町，みやこ町，添田町。主に山地森林。	

有鱗目ナミヘビ科	シロマダラ	準絶滅危惧
<i>Dinodon orientale</i> (Hilgendorf,1880)		2001：準絶滅危惧，環境省：－
選定理由	もともと夜行性のヘビで，分布域は結構広いと思われるが，その各地域でも，生息確認は断片的で，個体数もそれほど多くないと思われる。しかも，確認されている多くの情報が路上死体(DOR)である。もっと精査しなければいけないが，環境の変化で数が減っている模様。	
分布情報	北九州市若松区，八幡東区，福岡市西区，早良区，宗像市，糸島市，みやこ町。割と住宅地やその周辺でも見つけることがある。	

有鱗目ナミヘビ科	ヒバカリ	準絶滅危惧
<i>Amphiesma vibakari vibakari</i> (Boie,1826)		2001：－，環境省：－
選定理由	小型のヘビで，昼行性であるが，夕方や夜間にもみられる。平地や山地の湿った林内，水田，河川などの主に水辺付近で見られる。カエルをよく食べるため，カエルの生息状況によっても生息数は左右される。カエルの生息環境を含めた水辺の豊かさが必要と思われる。	
分布情報	北九州市，福岡市，大牟田市，直方市，田川市，中間市，大野城市，宗像市，古賀市，朝倉市，那珂川町，篠栗町，筑前町。平地や山地，主に水辺。	

カメ目スッポン科	ニホンスッポン	情報不足
<i>Pelodiscus sinensis</i> (Wiegmann,1835)		2001：準絶滅危惧，環境省：情報不足
選定理由	日本には遺伝的に異なる2系統が生息しており，一つは日本に固有のもの，もう一方は，中国大陸のものとはほぼ一致するという。県内ではこれら両系統が分布しているか，交雑されているかは不明である。罟を使って個体の捕獲を行い，遺伝子解析を行う必要がある。	
分布情報	北九州市，福岡市，久留米市，田川市，柳川市，朝倉市，筑後市，中間市，福津市，みやま市，那珂川町，水巻町，みやこ町	